

# 先生方のための徹底入試対策講座

## 第108回 センター試験，最後の21日間作戦！

センター試験が近づいてきました。この原稿がウェブにアップされるのは、年末、試験まで21日、3週間です。この最後の21日間で何ができるのでしょうか。

たった21日間で？と思う人もいると思いますが、まだまだ時間はあります。多くの受験生がセンター対策の勉強を始めるのは、11月ごろからですね。試験までの80日余りが平均的です。そう考えるとまだ4分の1が残っています。これからが勝負！ですね。

この21日間にできる対策を挙げようと思います。

### 1 不安な分野が残っていれば1週間で解消する

もし、どうしても不安な分野が残っていれば、1週間で徹底的に集中対策。毎日5時間7日間ぐらいで、かなり得意分野にできますよね。

複数の分野が苦手でもまずその中で最も苦手な一つを得意分野に。一つの分野でも、不安がなくなれば、得点力はぐんとアップします。

### 2 データの分析はセンター試験の傾向に即した対策をする

この分野では、国公立の2次試験には（一部の大学を除いて）ほとんど出題されません。センター試験では必ず出題されます。そして私立文系に出るような単なる計算だけの問題はセンター試験には出ません。グラフや表などのデータを分析し、これをもとに判断が必要なものが出されています。過去問などを素材にデータの読解・分析の練習をすることが有効ですね。

### 3 本番と同じ試験時間帯で予行演習

時間を測り、まったく同じ時間帯で、1年分の問題を解いてみることで、時間感覚を身に付けるのです。実際の試験の日は昼食を挟むのでそれも含めて予行演習です。その前後の体調なども確認し本番に備えれば、万全です。

### 4 数学Aの3分野のうち選択2分野を決める

数学Aの分野は、「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」からの選択問題（3問中2問の選択）です。センター試験は時間との勝負、どの問題を選択しようかと迷っている暇はないはず。自分が高得点できる2分野を過去問などを参考に調べておくことです。余程のことがない限り、迷わず選択するとよいでしょうね。

### 5 計算ミスを防ぐトレーニング

今更、計算ミスは防げない、とあきらめるのはまだ早いのです。計算ミスの原因のいくつかはすぐに解消できます。よくあるケースは、計算を乱雑に書いて余白がなくなりそれまでの計算の一部を消してそこに計算を続ける、というものです。乱雑に書くことで計算ミスが多発し、計算の一部を消すことで検算ができなくなるのです。誤答を招く最も多い要因ですね。計算やグラフなどはできるだけコンパクトに整然と。余白の量も考えておくとよいと思います。

## 6 センターでの設問の特徴を知っておく

センター試験では必ずしも（2次試験のように）設問がつながっているとは限りません。次々と違うテーマに移っていくことが多くある設問が解けなくても、そのあとの設問が独立に解けることがあります。こうした点に注意して、センター試験の特徴を知っておきましょう。ある設問でつまずいてもその先を安易にあきらめてはならないことを知っておくのです。

## 7 最後に、当日の大作戦！～本番で、予定する得点が難しく頭が真っ白になったら

多くの受験生は、志望校や科目の関係から、数学では少なくとも何点は取らなければ、と予定する各人のハードルがあります。試験中、どうしても思ったよりうまく解けずに予定のラインは難しいと頭が真っ白になることがあるかもしれませんね。そうしたときには、焦ってはいけません。センター試験の数学の平均点は年により10点前後の変動があるからです。難しい問題の年かもしれません。焦りそうなら、そうした可能性があることを思い出して、思い切ってハードルを10点下げてみましょう。焦って何もできなくなるのではなく、落ち着いてさらに少しでも得点を重ねていく方がよいですよ。

学校法人河合塾 数学科講師 大竹真一